

**授業概要**

平安時代から鎌倉時代への移行期を生きた女性の作品『建礼門院右京大夫集』について講義する。はるか昔、激動の時代に翻弄された女性が自分の人生を作品化したもので、そこに記される輝かしかった過去や絶望の日々は読む者を圧倒する力を持っている。過去の出来事を選んで残すということは、忘れることができない、記さずにはいられなかった思い出が集められているということである。残された思い出をたどることで、彼女の人生を追体験しよう。

特に「建礼門院右京大夫」という呼び名は彼女が主体的に選んだ名であり、なぜその名を残したのか、そこにはいかなる思いがこめられているのか、読み取ってもらいたい。

**授業計画**

第 1 回	ガイダンス
第 2 回	〈女房〉について
第 3 回	序・素晴らしい世界
第 4 回	貴公子たちとの交流
第 5 回	平資盛との恋路
第 6 回	題詠について・右京大夫の題詠歌
第 7 回	平家にまつわる不穏な気配
第 8 回	平家の都落ち
第 9 回	戦乱下の不安な心境
第 10 回	最後の手紙
第 11 回	資盛の死
第 12 回	敗者の末路
第 13 回	変わってしまった宮中
第 14 回	再出仕した右京大夫の状況
第 15 回	「その世のまま」の名前
第 16 回	定期試験

**到達目標**

- ① 詞書・歌について語法に注意しつつ読解することができる。
- ② 人生を作品化する時、どのような情報が選択され、何を伝えようとしているのかを読み解くことができる。

**履修上の注意**

古典についての知識が無くても問題ないが、わからないことについては自分で調べる積極性をもってほしい。質問された際は自分の意見を述べてもらいたい。また、崩し字を読む勉強もする。はじめのうちは全く読めないかもしれないが、継続して努力してほしい。

**予習・復習**

ノートをしっかりととり、質問された際に発言できるように準備してほしい。

**評価方法**

授業への参加度（20%）・定期試験（80%）の結果によって判定する。

**テキスト**

- ・教科書名：建礼門院右京大夫集 全訳注
- ・著者名：糸賀きみ江訳注
- ・出版社名：講談社学術文庫

【参考文献】和歌文学大系『式子内親王集／建礼門院右京大夫集／俊成卿女集／艶詞』も便利。